

2 0 0 5 年 7 月 1 2 日

株式会社 富士経済

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町

2-5 F・Kビル

TEL.03-3664-5811 FAX.03-3661-0165

URL : <http://www.group.fuji-keizai.co.jp/>

広報部 03-3664-5697

## 清涼飲料 5 分野 5 2 品目の市場調査を実施

- 0 4 年は猛暑により 6 0 % 以上の品目で前年比プラス、市場全体は販売量・額とも前年比 4 % 増 -

日本茶	0 4 年	4, 4 6 9 億円 (前年比 1 3 0 %)	0 5 年見込	5, 2 5 3 億円 (前年比 1 1 8 %)
豆乳類	0 4 年	4 2 3 億円 (前年比 1 4 5 %)	0 5 年見込	5 2 0 億円 (前年比 1 2 3 %)
ビネガードリンク	0 4 年	1 7 2 億円 (前年比 1 4 8 %)	0 5 年見込	2 1 6 億円 (前年比 1 2 6 %)

総合マーケティングビジネスの(株)富士経済(東京都中央区日本橋小伝馬町 代表取締役 阿部英雄 03-3664-5811)は、このほど果実・野菜飲料、炭酸飲料、乳性飲料、嗜好飲料、その他飲料の清涼飲料 5 分野 5 2 品目の定期市場調査を 4 ~ 5 月にかけて実施した。その結果を報告書「2 0 0 5 年清涼飲料マーケティング要覧 N o . 1 」にまとめた。

### < 調査結果の概要 >

分 野	2 0 0 4 年	0 4 / 0 3	2 0 0 5 年 (見込)	0 5 / 0 4
果実・野菜飲料	5, 4 4 6 億円	1 0 2 . 5 %	5, 4 7 8 億円	1 0 0 . 6 %
炭酸飲料	5, 1 3 3 億円	1 0 5 . 5 %	5, 2 0 9 億円	1 0 1 . 5 %
乳性飲料	1 兆 2, 0 8 1 億円	9 9 . 0 %	1 兆 1, 9 1 2 億円	9 8 . 6 %
嗜好飲料	1 兆 9, 2 0 3 億円	1 0 6 . 7 %	2 兆 2 9 8 億円	1 0 5 . 7 %
その他飲料	9, 7 6 1 億円	1 0 6 . 0 %	9, 8 2 5 億円	1 0 0 . 7 %
合計	5 兆 1, 6 2 4 億円	1 0 4 . 1 %	5 兆 2, 7 2 1 億円	1 0 2 . 1 %

### 1. 2 0 0 4 年の清涼飲料市場と 2 0 0 5 年の見込み

2 0 0 4 年は、前年の冷夏から一転、記録的な猛暑という追い風が吹き、清涼飲料市場は全般的に好調に推移した。日本茶飲料を中心とする茶系飲料や炭酸飲料、ミネラルウォーターなどが止渴需要を吸収し、大手メーカーが新品を相次いで市場導入したスポーツドリンクが飛躍的に増加して、清涼飲料市場全体では販売量、販売額とも 4 % の伸びを達成した。調査対象 5 2 品目のうち 6 0 % を超える 3 3 品目が前年を上回る販売額を記録した。

2 0 0 5 年は、全体では販売量 3 %、販売額 2 % の伸びに落ち着くものと見込まれ、合計 5 兆 2, 7 0 0 億円超程度に成長すると見込まれる。

#### 果実・野菜飲料

甘味離れやライト嗜好の逆風は続いているが、猛暑による夏バテ防止需要が加わり 1 0 0 % 果汁飲料が増加し、野菜系飲料は秋以降の野菜高騰もプラス要因となり、販売額で前年比 2 . 5 % 増と実績を伸ばした。2 0 0 5 年は、野菜系飲料が引き続き好調と予想されるが、全体では横ばいで推移する。

#### 炭酸飲料

消費者の炭酸離れからここ数年は需要が低下する一方であった。アサヒ飲料「三ツ矢サイダー」、カルピスの「カルピスソーダ」の復活、コカ・コーラボトラーズの「C 2」の新商品効果に加え、1 0 年振りの猛暑という気候要因が大きく寄与し 5 年ぶりに販売額で前年比 6 % 増となった。2 0 0 5 年は、乳類入炭酸飲料、ジンジャーエール以外に前年の伸びを上回るものがなく、2 % 増の 5, 2 0 0 億円と見込まれる。

#### 嗜好飲料

市場規模最大の缶コーヒーは微増に留まった。日本茶は近年成長し続け、トップシェアの伊藤園が引き続き好調に推移した。サントリーは 3 月に発売した「伊右衛門」が大ヒットし、花王の特定保健用食品「ヘルシア緑茶」も容器・容量の拡充と販売エリアの拡大で大幅な増加を果たした。日本茶の販売額は前年比 3 0 . 3 % 増と記録的な伸びを示した。嗜好飲料トータルでは前年比 1 0 6 . 7 % となった。2 0 0 5 年は、大手各社の新品が相次ぎ、前年をしのぐ伸びを示すのは缶コーヒー、ブレンドティ、冬期型飲料と見られる。また、2 桁以上の成長が見込まれ

るのは、日本茶、「爽健美茶」や「十六茶」などのブレンドティ、特定保健用食品および栄養機能食品の機能型ティードリンクとなっている。

その他飲料

ボリュームゾーンのリネラルウォーターと機能性清涼飲料がプラスになるなど、トータルで引き続き販売額前年比6%の伸びを確保した。豆乳類は、新規参入企業が相次ぎ、無調整タイプも高い伸びを確保して躍進を続けている。ピネガードリンクは、乳業メーカーが宅配商品として提案する動きが加わって市場の伸びが飛躍的に拡大している。2005年は、豆乳類、ピネガードリンクが前年の成長率を下回るもののそれぞれ23%、26%の伸びを見込む。ミネラルウォーターも10%近く伸びると見られる。

2. 個別注目市場

日本茶 2004年 4,469億円(前年比130%) 2005年見込 5,253億円(前年比118%)

2003年は、伊藤園の「お~いお茶」が1,000億円に迫る域にまで達し、花王が「体脂肪が気になる方に」という謳い文句で、特定保健用食品「ヘルシア緑茶」で5月に新規参入。マーケティング戦略が奏功し、100億円を突破した。2004年は、花王の「ヘルシア緑茶」が販売地域、販売チャネルを拡大して大幅増となった。サントリーが3月に発売した「伊右衛門」が大ヒットとなり、伊藤園をはじめ上位企業の多くが猛暑の恩恵もあって好調に推移した。2004年のサントリー「伊右衛門」の大ヒットを受け、2005年春は、コカ・コーラボトラーズが「一(はじめ)」、アサヒ飲料が「若武者」、キリンビバレッジは「生茶」を、伊藤園は「お~いお茶 緑茶」などサントリー以外の上位企業が相次いで主力となる新商品の投入、既存商品のリニューアルを実施している。

豆乳類 2004年 423億円(前年比145%) 2005年見込 520億円(前年比123%)

2000年以降、年平均30%超の驚異的な伸長を見せている市場である。2004年は前年比145%と高い伸長を遂げ、品薄状態も続くほど人気を博した。市場の拡大とともに新規参入企業も相次ぎ、アイテムも豊富になっている。市場が成長の真只中にあるため、シェアの食い合いはまったく発生していない。引き続き消費者の健康志向から同市場のアイテム数の増加とともに市場は拡大すると見込まれる。

紀文フードケミファは、2005年5月に「健康」を求める消費者向けに特保を取得した新商品「特濃調整豆乳」を発売。特にコレステロールが高い中高年層をターゲットに販売をしていく見込みである。

ピネガードリンク 2004年 172億円(前年比148%) 2005年見込 216億円(前年比126%)

りんご酢、黒酢を主原料に用いたストレートタイプ清涼飲料用市場。猛暑によるプラス要因に加え、健康志向が高まる中、乳業メーカーが宅配商品としてピネガードリンクを提案する動きが加わって市場に大きな影響を及ぼした。また、マスコミで黒酢によるダイエットなどのピネガードリンクの飲用習慣を促す動きが好影響を及ぼし前年比148%と飛躍的に拡大した。2005年も参入企業の増加と、商品ラインナップの増加がみられ引き続き伸長すると見込まれる。

以上

< 調査概要 >

調査期間 2005年4月~5月

調査対象

果実・野菜飲料 (9品目)	100%果汁飲料、果汁飲料、果汁入清涼飲料、低果汁入清涼飲料、果粒含有果実飲料 果肉飲料、トマト飲料、野菜飲料、野菜入混合果汁飲料
炭酸飲料 (7品目)	コーラフレーバー飲料、透明炭酸飲料、果実着色炭酸飲料、乳類入炭酸飲料、ジンジャーエール、果汁入炭酸飲料、低果汁入炭酸飲料
乳性飲料 (10品目)	飲用牛乳、白物乳飲料、コーヒー系乳飲料、色物乳飲料、(カップ乳飲料) 乳製品乳酸菌飲料、乳酸菌飲料、乳類入清涼飲料、殺菌乳製品乳酸菌飲料(ストレート)、ドリンクヨーグルト
嗜好飲料 (14品目)	缶コーヒー、リキッドコーヒー、(PETボトルコーヒー) 紅茶、ウーロン茶、麦茶、日本茶、ブレンドティ、その他ティードリンク、(機能型ティードリンク) ココアドリンク、スープ、甘酒、おしるこ
その他飲料 (12品目)	国産ミネラルウォーター、輸入ミネラルウォーター、食系ドリンク、薬系ドリンク、健康サポート飲料(PET・缶・紙・小瓶・スパウト付パウチ)、機能性清涼飲料、(スポーツドリンク)、豆乳、大豆飲料、ピネガードリンク

資料タイトル：「2005年清涼飲料マーケティング要覧No.1」

体 裁：A4判 306頁

価 格：130,000円(税込み136,500円)  
CDROM付140,000円(税込み147,000円)

調査・編集：富士経済 東京マーケティング本部 第一事業部  
TEL:03-3664-5831 (代) FAX:03-3661-9778

発 行 所：株式会社 富士経済

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F・Kビル

TEL03-3664-5811 (代) FAX 03-3661-0165 e-mail:koho@fuji-keizai.co.jp

この情報はホームページでもご覧いただけます。URL:<http://www.group.fuji-keizai.co.jp>